

構 成 と 概 要

1 特集の構成

(1) 全体構成

特集「文書館の30年」は、昭和44年の開設から30年にあたる平成11年度の第13号（前号）と、昭和50年の独立（条例設置）から25年にあたる平成12年度の第14号（本号）の2号にわたって構成した。特集の趣旨は、第13号「特集にあたって」を参照されたい。

(2) 前号（第13号）の構成

前号では、昭和30年代後半の揺籃期から昭和50年4月の独立直前までの、県立図書館内部組織の時代を対象とし、内容的には次の5部構成とした。

- (1) 開設以来、昭和58年の新館開設まで、文書館をリードされた吉本富男元館長からの聞き取り
- (2) 森末義彰氏の文書館落成記念講演原稿
- (3) 文書館沿革資料
- (4) 年表
- (5) 紹介文献

(3) 本号（第14号）の構成

本号では、昭和50年4月の県立浦和図書館からの独立以降、平成11年度までを対象とした。条例・規則の制定、新館の建設・移転、情報公開制度の開始、地図センターの開設、県史編さん室業務の移管等の画期をもった25年間である。ただし、独立に至る経過など、「文書館沿革資料」には昭和50年4月以前の資料も収録した。

内容的には、上記前号の内容(1)及び(3)～(5)の継続のほか、利用者・収集資料数、講座・講習会、予算事業等について、昭和44年以來の統計記録的データを収録した。なお、前号では本号の構成として論稿等の掲載も予定していたが、紙幅の制限等により、今回の特集は基礎資料の集約にとどめることとした。

2 本号 part2「独立、そして新館の時代」の内容

(1) 吉本富男元館長オーラル・ヒストリー2 文書館発展のころ

今回は、昭和50年4月以降、59年4月に県立浦和図書館長として文書館を離れられるまでをお聞きした。この期間は、図書館からの独立、新館の建設・移転、情報公開制度との協調を推進された時期であり、聞き取りの内容も、その間の経緯が中心となった。

本号掲載分の聞き取り調査は、太田が作成した聞き取り項目案をもとに次の日程で行われた。

- | | | | |
|-----|----------|---------------|-------------|
| 第1回 | 8月1日（火） | 13時30分～17時30分 | 聞き手：太田、加藤 |
| 第2回 | 8月9日（水） | 13時30分～17時 | 聞き手：岸、太田、加藤 |
| 第3回 | 8月23日（水） | 13時30分～16時15分 | 聞き手：岸、太田、加藤 |
| 第4回 | 8月30日（水） | 13時30分～16時30分 | 聞き手：太田、加藤 |

場所はいずれも文書館4階編集室2。

今回も前号同様、一旦、録音テープを原稿に起こしたうえで、分量的な削減や再構成を行った。インタビュアーの質問は、見出し項目を立てることにより省略し、最大限、氏の話を探録するよ

うにした。この間の作業は、加藤がテープから原稿を起こしたものを構成、岸、太田が校閲するという流れをとった。そのうえで氏自身による確認、修正・加筆を得て成稿とした。また、関係者以外の読者には未知の人名・事項や理解しにくい経緯等については、編集担当で注を付した。

(2) 文書館沿革資料 2

前号収録期に続き、昭和48年の独立請願書から平成11年度までの沿革と事業を伝える資料を、文書館自身の行政文書群及び刊行物の中から選択した。出典の記されていないものは、すべてこの文書群からのものである。最終的に115の資料を選択、章節構成に編集し簡単な解説を付した。

収録にあたっては、紙幅の制限から資料を大幅に制限せざるをえなかった。幸い、独立後の昭和50年度からは『文書館概要』、昭和58年度以降は『要覧』が毎年度刊行されるようになり、特に後者では各年度の事業報告や施設設備が掲載されるようになったので、前号では収録した各年度の事業の全体像を示すような資料（年度活動報告、ファイル基準表など）及び施設設備関係資料・建築平面図等は割愛した。

また、当館が長年にわたり会長・事務局を務めてきた、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会（平成2年に埼玉県市町村史編さん連絡協議会から会名変更、略称「埼玉史協」）、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（略称「全史料協」）の活動については、それぞれの会報や記念誌に紹介されていることもあり、最小限の画期的事業のみにとどめた。さらに、新館建設や情報公開制度、あるいは地図センターの開設などにあたっての、検討過程での資料や構想案などもほとんど収録できなかった。

収録にあたっては誌面の都合上、一部資料の体裁を変えたほか、起案文書の処理データについては起案のセクションと年月日、決裁者及びその年月日に限った。また、誤字・脱字と思われるところも、原則としてそのままとしたが、（）書で注記した箇所もある。

以上の調査・編集作業は太田が行い、岸が校訂した。また、資料からのワープロ入力には佐藤光司・綿貫瑞穂行政文書課嘱託の協力を得た。

(3) 年表 2

埼玉県における当館を中心とした動きを、各年度の『要覧』と当館行政文書・刊行物、埼玉史協・全史料協の刊行物等を典拠に作成した。各事項末に付した典拠のうち「1」等の番号は、「文書館沿革資料2」の典拠・関連資料番号であり、「文献1」等は「紹介文献2」中のものであるので、併せて参照されたい。また、全国の史料保存運動の動向についても作成したが、平成6年度までの事項は『日本の文書館運動—全史料協の20年—』（1996年・同会編・岩田書院発行）所収「戦後の史料保存運動年表」により、それ以降は、各種刊行物をもとに新たに作成した。なお、本表は加藤が作成し、岸・太田が修正を加えた。

(4) 紹介文献 2

当該期の当館を対象とした論文・紹介文献等をまとめた。太田が作成し、岸が修正を加えた。

(5) 統計資料

「文書館沿革資料」とは別に、30年の通覧というスタイルの方が適していると思われるデータにつき、前記『文書館概要』『要覧』及び各年度事業報告等を主な典拠として作成した。

以上の調査・編集作業は加藤が行い、岸・太田が校訂した。

協力者（敬称略） 吉本富男／原由美子／埼玉県立浦和図書館

「文書館紀要」第14号編集担当

岸清俊（史料編さん課）／太田富康（行政文書課）／加藤かな子（古文書課）